

第8回エクセレントNPO大賞
「組織力賞」講評

1. 審査の視点

「組織力賞」は、活動主体としてガバナンスが機能し、経営の持続性自らの組織改善の刷新性をうまく共存させている組織に与えられる賞です。組織の使命や目的を含めた全体像が文書として明示され、その課題や方針が明確になっているか、事業の効果と成果がホームページ等で公開されているかなど、情報開示、資金調達の多様性や透明性などの点を中心に審査を行いました。また、運営の独立性や中立性を維持しているか、スタッフが組織の目的を理解した上で仕事に取り組み、スキルアップできるよう助言・相談や教育の場を設けているかなど、組織の使命を継続的に遂行できる基盤を十分に持っているのか、という面からも審査しました。

2. 審査結果

(1) ノミネート団体

①「伊万里はちがめプラン」

伊万里はちがめプランは、市民の日常生活や企業の経済活動によって排出される大量の生ごみを地域の資源として有効に活用する活動をする佐賀県のNPO法人です。平成4年（1992年）市民研究会から活動を開始し、活動29年を迎える団体です。資源循環型社会を目指し、多くの市民を巻き込みながら環境啓発活動を行っています。ホームページを工夫して活動の様子を分かりやすく発信されていることや小規模ながらも収入構造の多様化に取り組まれていることなどを評価いたしました。市民性、課題解決力、組織力の3点をバランスよく得点されています。

②「多言語センターFACIL」

1995年の阪神淡路大震災で、言葉が分からず情報を得られない外国人被災者の支援を契機に活動が始まり、その後、外国人住民への日常的なサポートの必要性を認識し、1999年に団体として設立されました。2003年からは病院へ医療通訳者を派遣する活動を開始するとともに、外国人住民の社会参画機会の拡大、日本人住民との相互理解を促し、社会的不平等・分断の解消に取り組んでいます。今回、会計処理における透明性の高さや組織としてスタッフ間のコミュニケーションがしっかりと取られている点の評価しました。コロナにより、外国にルーツを持つ人々に対する社会制度の脆弱性が露呈しました。今後、コロナ下でテレワークなどが増える中、IT等を活用してどの

ようにこれまでのような円滑なコミュニケーションを図っていくか、更なる挑戦に期待が集まりました。

③「日本環境教育フォーラム」

日本環境教育フォーラムは、体験と対話を重視した環境教育で、持続可能な社会づくりを担う人材を育成する NGO で、1992 年に設立されました。1997 年に環境省所管の社団法人、2010 年には内閣府所管の公益社団法人となり現在に至っています。2018 年には環境大臣賞を受賞するなど、30 年近くの長きにわたる地道な活動が評価されており、行政や企業、NGO/NPO からも一定の信頼を得ています。そのような中、組織トップの交代があっても、全職員参画の下、組織基盤強化の内容も含めた中期計画を策定し、それに則って、組織強化に取り組んでいる点や多様な研修制度を通じて、職員のスキル向上を図っている点などを評価いたしました。

④「日本レスキュー協会」

日本レスキュー協会は、1995 年の阪神淡路大震災時に、海外から災害救助犬が駆け付けた際に、当時の日本では災害救助犬の認知度が極めて低く、受入れや連携が上手くいかなかったことを契機に同年 9 月発足した団体です。現在は、災害救助犬のみならず、被災者や障がい者、高齢者などに、身体的・心理的・社会的効果をもたらすことで、様々な痛みや不安を軽減する「セラピードッグ」の育成と派遣を行っています。さらに、虐待や飼育放棄等人間の身勝手な理由で捨てられた犬や猫を救い、温かい家族を探す「動物福祉」の活動を行っています。これまでの 25 年間の活動を通じて、全国 52 の行政と災害協定を締結し、国内外 33 カ所の被災地で計 69 名の行方不明者をご家族のもとに帰してきました。今回、活動資金の確保について、2020 年から毎月セミナーを開催して事業収入を得るなど、様々なチャンネルを活用して、高い資金調達能力を示している点や、豊富なメニューを揃えて、組織内での人材育成に力を注いでいる点などを評価しました。

(2) 組織力賞

以上、ノミネート団体の中から慎重に議論を重ねた結果、組織力賞は「日本環境教育フォーラム」に決定しました。団体としての歴史を重ねるにつれて、ついて回る事務局職員や会員の高齢化の課題に対し、2019 年 70 歳になる前事務局長が退任するのを機に、新事務局長に 30 歳の若手を起用、さらに各事業グループのリーダーに 30 代前半の若手を起用するなど、若い力が中心となって信頼される NGO となるよう組織づくりを進めています。まさに冒頭に上げた、経営の持続性と自らの組織改善の刷新性をうまく共存させている点を高く評価しました。今後、新しい組織体制のもと、さらに発展していくことが期待されます。

3. 今後に向けての期待

組織力という単語を正面から捉えた場合、どうしても歴史があり規模が大きな団体が有利であると思われがちです。そのため、組織力賞への応募件数が市民賞、課題解決力賞と比べて少なくなりがちです。しかし、今回の審査でも点数の差はわずかであり、団体の規模の大小がポイントだったのではなく、時代の変化への対応力と人材育成への具体的な取り組みがポイントだったと思います。一組織力強化は、一朝一夕には、成果は生みません。だからこそ、資金源の多様化や人材の育成などを通じて、具体的な取り組みを積み重ねていただくことを期待しています。